

〔景観性の高い都市緑化に向けた夏花の生産・管理技術の開発〕

つるなしアサガオ「サンスマイル」の開花に及ぼす播種時期とシェード処理開始日の影響

田旗裕也・岡澤立夫

(園芸技術科)

【要 約】「サンスマイル」は花壇植栽に有望なアサガオ品種である。7月中旬から8月中旬は自然日長栽培で花が咲きにくい傾向があるが、盛夏期の開花数減少や栽培期間短縮を目途にしたシェード処理が有効である。

【目 的】

2020年オリンピックでの使用を念頭に、わい性でつる伸張のないアサガオ品種「サンスマイル」について、夏花壇材料としての有望性を検証する。本試験では、生産技術確立の観点から、播種時期とシェード処理時期が盛夏期の開花数に及ぼす影響を明らかにする。

【方 法】

市販わい性アサガオ「サンスマイル」を供試した。発芽後は最低18℃加温ハウス内でセル育苗し、播種10日後に10.5cm黒ポリポットへ仮植した。ポット用土は、赤土:pH調整済みピートモス:腐葉土=4:2:4(容積比)配合土で、基肥はマグアンプKを3g/Lとエコロング140日タイプを2g/Lとした。【試験1】2015年5月1日、15日、6月1日、15日に播種し試験区とした。各区とも着色蕾を確認した播種60日後に分場内露地圃場へ株間20cmで列植した。8個体2連制に配列し、植栽時には株元へIB化成S1号7.5kg/aを施用した。週一回開花数を調査した。【試験2】2015年6月15日に播種し、6月25日に10.5cm黒ポリポットに鉢上げ後、所定の期日から18:00~6:00の暗幕閉操作によるシェード処理を4日連続で行った。シェード処理開始日は6月29日、7月8日、13日、21日の4区を設け、処理後は露地自然日長条件下で栽培し、ポット栽培で個体ごとの開花日を調査した(n=20)。また、着色蕾を確認した固体から順次露地圃場に定植した(n=10)。なお発芽後からシェード処理開始日までは深夜4時間の光中断処理を行った。

【成果の概要】

1. 【試験1】6月1日以降の播種区は7月に未開花だった。7月中に開花できた5月1日と15日播種区は、8月中~下旬に開花数が増加したが、9月下旬には減少した(図1)。
2. 【試験2】到花日数はシェード処理開始日6月29日と7月8日が最短で30日未満、処理が遅れるほど到花日数が増加し、第1花開花日も遅延した(図2)。
3. 6月15日播種で7月8日にシェード処理を開始すると、8月中の開花量を確保できた。シェード処理を行わない場合には、開花始日が8月下旬だった(図3)。
4. 本試験では、赤色・藤色・桃色地の白覆輪花を供試したが、調査項目ごとの品種間差は認められなかった。これ以外の品種も含めた差異は今後の検討を要す(図表省略)。
5. まとめ:7月の花壇素材に「サンスマイル」を用いる場合、より早期の播種または栽培期間短縮のうえでもシェード処理が有効である。一般的栽培では開花盛期が8月下旬になるため、植栽時期と観賞期を考慮した栽培技術として、シェード処理は有効である。



図1 アサガオ「サンスマイル」の草姿
 注)2015年5月15日播種、7月8日露地定植
 上段:9月28日(手前左側植栽)、下段:10月1日撮影

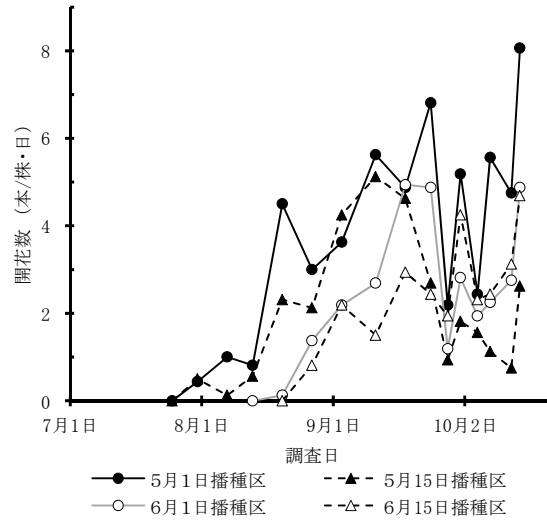


図2 アサガオ「サンスマイル」播種時期と花壇植栽後の開花数推移
 注)10.5cmポット50日育苗後に露地花壇へ定植(n=16)

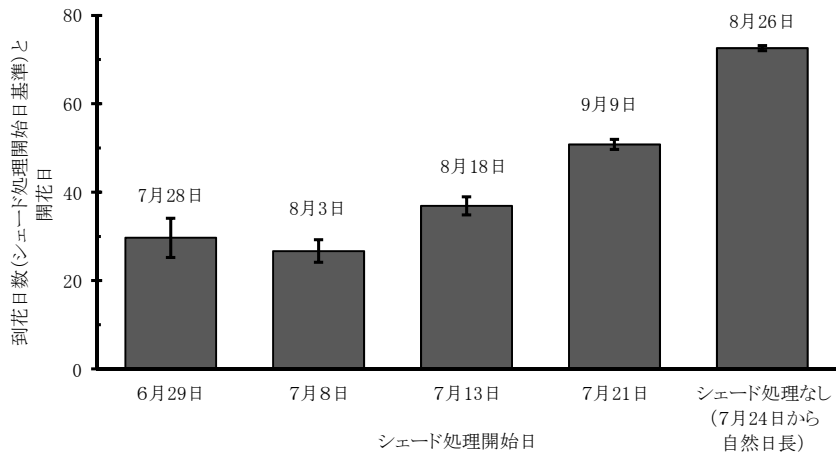


図3 シエード処理開始日が到花日数に及ぼす影響
 注)2015年6月15日播種、6月25日定植の10.5cmポット栽培。グラフ上の上下線は標準誤差(n=18~20)
 シエード処理は18:00~6:00の暗幕閉操作4日連続。シエード処理なし区の到花日数は播種日基準。

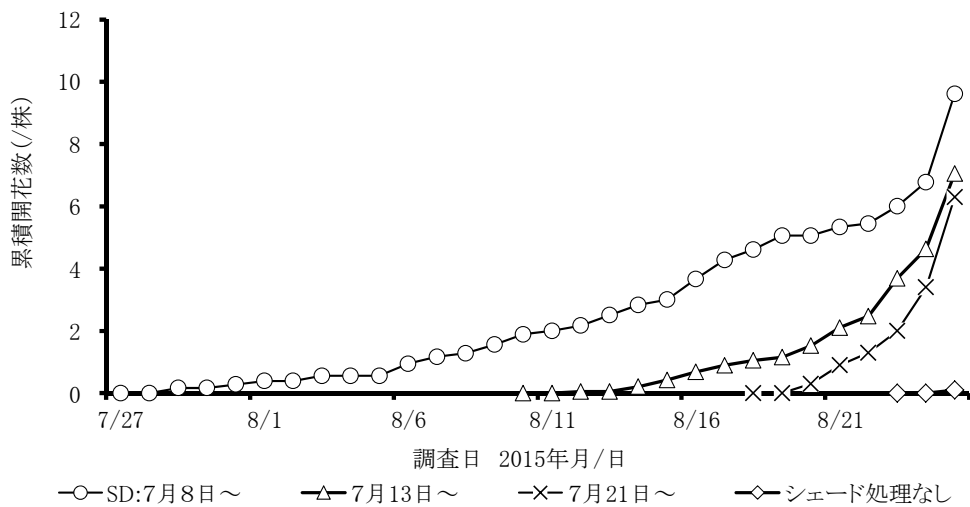


図4 シエード処理開始日が株あたり累積開花数に及ぼす影響
 注)2016年6月15日播種、6月25日ポット仮植、着色蕾発生時に圃場定植